

第67回卒業式



外は小雨が降り出してしまいましたが、そんな雨を吹き飛ばす明るい笑顔で卒業生が登校してきました。

「卒業生入場」の合図とともに、舞台から一人一人胸を張って入場しました。



卒業証書授与では、これまでとは違い、ファイルに入った卒業証書を堂々と受け取りました。

『お祝いの言葉、お別れの言葉』では、卒業生が入学式からの小学校生活6年間の思い出、在校生へのバトンタッチ、これまでの感謝の気持ち、そして未来への決意を、歌を交えながら伝えました。それに対して、在校生が、お祝いの言葉や歌で応えました。どちらも、気持ちのこもった言葉や歌で、感動が広がりました。



式が終了してから、最後の学級活動を行い、慣れ親しんだ教室に別れを告げました。門出は、雨が降っているので廊下で行いました。在校生が作る花のアーチの中を、保護者、来賓、職員に祝福されながら巣立っていきました。



式辞

暖かさが日ごとに増し、桜のつぼみもふくらんでまいりました。この良き日に、十四山東部小学校第67回卒業生として、巣立っていく24名のみなさん、ご卒業おめでとうございます。心からお祝いをいたします。

．．． 中 略 ．．．

ご参列のご家族の皆様、お子様のご卒業、誠におめでとうござい
ます。お子様の誕生から今日まで、健康、生活習慣、学習などなど、
細かい配慮をされながら、本日を迎えられました。それらの一つ一

つを振り返るにつけて、感慨ひとしおのものがおありのことと存じます。重ねてお祝いを申し上げます。おめでとうございます。

さて、卒業生のみなさん、卒業に際してみなさんに次の言葉を贈りたいと思います。それは、「絆」です。東日本大震災が発生して三年がたちます。この震災の後よく使われた言葉が「絆」でした。私がこの二年間みなさんを見てきて、本当にすばらしい「絆」を作り上げてくれたなと感じます。教室では、いつもみんなで考えを出し合い、協力しながら授業を作り上げていました。休み時間は、友達と楽しく過ごしました。こうして、クラスの強い絆を作り上げました。通学団やふれあい班では、いつも下の学年のことを考えながら取り組んでいました。また、運動会などの行事では、リーダーとして、全力で全校をまとめてくれました。これらを通して、全校の大きな絆を育ててくれました。皆さんは、これから中学校という新しい世界に進みます。そこでもこれまでと同じように、新しい絆を作ってください。「絆」があることで、自信を持って取り組んでいくことができます。また、家では、家族の絆をさらに強めてください。そして、地域との絆も広げてください。

最後に、みなさんの晴れの門出にあたって、次の言葉をはなむけにします。

それは、『4000本のヒットを打つために、8000回以上の悔しい思いをしてきている』というものです。これは、みなさんもよく知っているアメリカのメジャーリーグで活躍しているイチローが、昨年4000本安打を打ったときの言葉です。イチローは、いつも簡単にヒットを打っているようにみえますが、実はその倍以上の失敗があるということです。その失敗をもとに努力を続けたことにより、4000本ものヒットを打つことができたわけです。

みなさんには、これから新しい生活が待っています。中学校の新しい学習、部活動など、これまでとは違うことばかりです。そこでは、必ず失敗があります。しかし、心配はありません。イチローのように失敗をもとに努力を続けてください。それにより、必ず結果がついてきます。

みなさんが、十四山東部小学校で学んだことを誇りにして、勇気を持って一歩ずつ前へ進んでいってくれることを期待しています。みなさんの未来に幸多かれと、心から祈りながら式辞といたします。